

無限に広がる創造の世界

西岡 良太 さん

(米湊)



思わず引き込まれそうな、精密さとリアリティ。それでいて個性的で不思議な世界観を感じさせるのが、西岡良太さんの作品です。
「物心ついたころから、気付けば絵を描いていました。」という西岡さん。学校などで専門的に絵について学んだことはなく、技術はすべて独学で身に付けました。
西岡さんは現在、会社勤めをしながら、創作活動に励んでいます。筆やエアブラシなどを使って、すべて手作業で行い、平日は約4時間、休日は約12時間作業をしています。
「創作活動に必要なのは、何よりも根気。一つの作品を仕上げるのに300〜500時間かかります。」



▲第11回新生展「りそな銀行東京ミッドタウン支店賞」受賞作品「天の叢雲」

絵を描く上でのテーマは「どこかにありそうで、どこにもない架空の風景」。何かをモデルにするのではなく、すべて西岡さんの想像の世界を表現するため、建物の構造などを正確に設計するのに多くの時間を費やします。

「シュールリアリズム 超現実主義」の作家には、常識的でありえない世界を描く人が多くいますが、私は現実離れしすぎないように、整合性にかなった作品を描くように心掛けています。」

これまでに公募展などで数々の賞を受賞してきた西岡さん。2007年には、若手のアーティストを対象にした「新生展」で「りそな銀行東京ミッドタウン支店賞」を受賞し、それがきっかけで、昨年5月に、東京六本木ミッドタウンで個展を開催しました。

「たぐさんの作家の方が個展に来

てください、人脈が広がりましたし、多くの刺激を受けました。そこで出会った作家の方と手紙のやり取りをして、アドバイスをいただいたりします。」

現在西岡さんは、東京の画廊での企画展などを計画しています。また、将来的には作品を紹介するホームページを立ち上げて、多くの人に作品を見てもらえるようにしたいと考えています。

「これからもずっと絵を描き続けていきたい。そしていつかはプロの作家になって、絵を描くことを仕事にしたい。」

絵を描いているときが一番楽しいと話してくれた西岡さん。西岡さんの作品が、近い将来、世界に羽ばたく日が来るかもしれません。

■問い合わせ

西岡良太さん (yotata@k2.so-net.ne.jp)



▲西岡さんの作品のシンボルともいえる鉄球が描かれた「色即是空空即是色Ⅲ」